

脱炭素社会への挑戦

阪神高速グループでは、カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けた環境施策の方向性を、以下の3つの視点で捉え、総合的・包括的な取り組みを推進しています。

3つの
視点

1 より快適な高速道路
サービスの提供
(地域の自動車交通の円滑化)

2 社会インフラ企業
としての自主努力
(事業活動における脱炭素化)

3 地域や社会との共創
(地域や関係事業者との協働)

1 3つの視点に基づく取り組み より快適な高速道路サービスの提供(地域の自動車交通の円滑化)

円滑な自動車交通の確保

阪神高速道路ネットワークの拡充・強化により、都市部へ集中する交通負荷の軽減を図るとともに、ボトルネック渋滞の発生箇所における車線運用の改良や既存設備の効果的な運用など、さまざまな渋滞対策により円滑な自動車交通を確保することで、走行車両からのCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

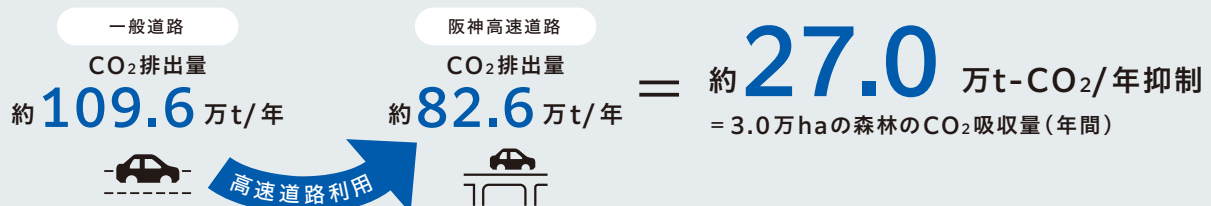
📖 P.35、P.41、P.64



西船場JCT

高速道路ネットワーク整備はCO₂抑制に貢献しています

自動車は時速60kmから80kmで走行すると燃費が良く、CO₂排出量も少なくなります。一般道路よりも効率良く走行できる環境を整える阪神高速道路のネットワーク整備そのものが、地域全体のCO₂抑制に貢献しています。



※ 出典：林野庁ホームページ

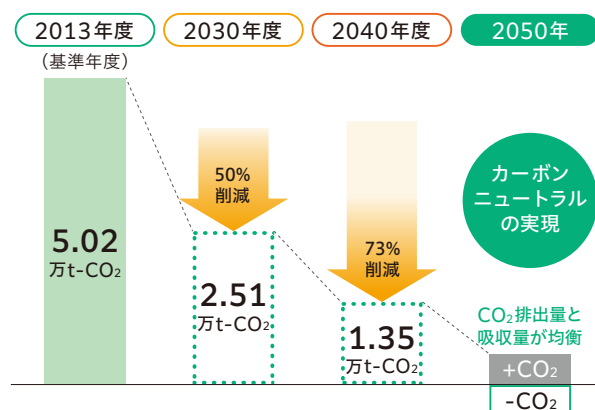
2 3つの視点に基づく取り組み 社会インフラ企業としての自主努力(事業活動における脱炭素化)

カーボンニュートラル・脱炭素社会に向けた目指すべきゴール

カーボンニュートラルに向けた目標

阪神高速グループでは、2050年カーボンニュートラルの実現をゴールに定め、事業活動における脱炭素化に取り組んでいます。また、阪神高速道路(株)では、CO₂排出量を2030年度までに50%、2040年度までに73%それぞれ削減(2013年度比)することを中間目標とし、目標達成のための主要施策につき「阪神高速グループ 環境行動計画」並びに「阪神高速道路(株) 道路脱炭素化推進計画」で数値目標を定め、事業活動における脱炭素化の取り組みを進めています。

〈2050年に向けた目標〉



注) 2013年度実績が残っていない一部項目に関しては、現存する最も古いデータを元に基準年度のCO₂排出量を算定

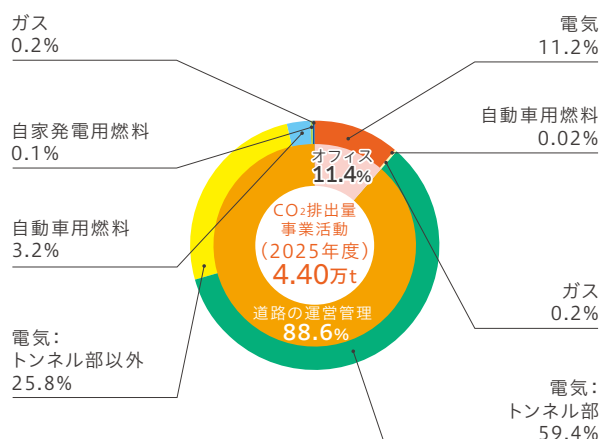
事業活動に伴うCO₂排出量の状況

阪神高速グループにおける2025年度の事業活動に伴うCO₂排出量は、4.40万tとなりました。2022年度の4.88万tをピークに減少傾向となっています。

4.40万tのCO₂排出量のうち約85.2%は、阪神高速道路の運営管理に伴う電力の使用に起因するものとなっています。具体的には、道路照明設備やトンネル換気設備など、市街地化が進んだ都市部やトンネル部での安全・安心な走行確保に不可欠な設備の稼働に主に利用されています。

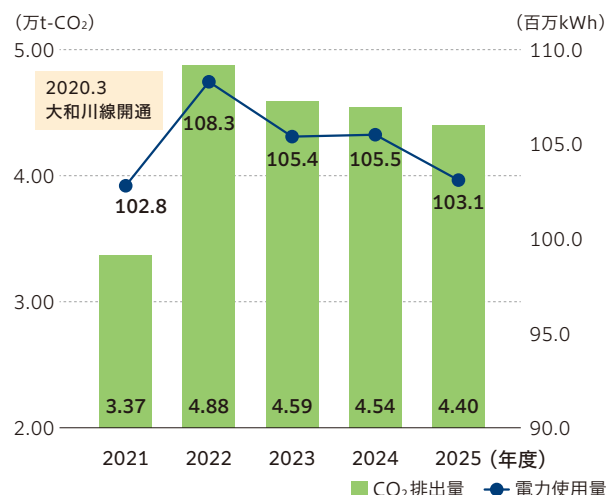
2020年3月の6号大和川線全線開通以後、電力使用量は増加傾向にありましたが、道路照明のLED化などの取り組みの進捗に伴い、2022年度をピークに減少傾向となっています。阪神高速グループでは、引き続き、道路照明のLED化や太陽光発電設備を活用した電力使用への切り替えなど、事業活動における電力使用量の削減を中心としたCO₂排出量削減に取り組んでいきます。

〈事業活動に伴うCO₂排出量〉



注) 2025年度は、2024年度の調整後排出係数を使用して暫定値として算出

〈CO₂排出量および電力使用量の推移〉



事業活動における脱炭素化に向けた取り組み

道路照明LED化の推進

2010年、全国初となる「高速道路本線用LED道路照明」を11号池田線で導入しました。2025年度末時点のLED化済・道路照明の割合は、71.3%となっています。LED道路照明は電力使用の大幅削減に貢献するとともに、長寿命であることから、点検や球替えのための車線規制も削減でき、作業効率化とともにお客さまの安全・快適な走行にもつながる取り組みとなっています。さらに、周辺光環境にも対応し、均一な明るさと高い視認性を確保する一方で、地震などの振動に強い構造を採用し、災害時の安全性も向上させています。



LED化された道路照明

再生可能エネルギーの活用

7号北神戸線・長坂山トンネル坑口付近では、1997年8月に太陽光発電設備を設置し、トンネル照明の電力として活用を始めました。太陽光発電設備は、現在までに4箇所整備済(年間発電量:約90,000kWh)で、2030年度までに新たに5箇所整備を計画しています。また、オフィスビルにおいても順次、再生可能エネルギープランの導入を進めるなど、事業全体での再生可能エネルギー活用を推進しています。



太陽光発電設備
(7号北神戸線長坂山トンネル坑口付近)

循環型資材(木材)の活用

木材には炭素を固定し貯蔵する特性があるため、木材の積極活用はCO₂の排出抑制につながります。尼崎PA(2019年オープン)、泉大津大型専用PA(2022年オープン)、中島PA[泉佐野方面行き](2025年オープン)の整備や、泉大津PA(海側・陸側)の改修工事では積極的に木材の活用を進め、木質のぬくもりや心地よい空間づくりにも努めています。また、木材の活用にあたっては、大阪府内産木材など国内産木材の活用とともに、間伐材や未利用材の活用にも努めるなど環境に配慮した施工に努めています。



中島PA(泉佐野方面行き)

3 3つの視点に基づく取り組み 地域や社会との共創(地域や関係事業者との協働)

次世代自動車の普及促進への取り組み

阪神高速の有人パーキングエリア(計4箇所)では、電気自動車用急速充電器を設置しています。泉大津PAでは2台同時に充電可能となっており、お客さまの快適なドライブをサポートできるような施設整備を進めています。また、より多くのお客さまが利用しやすいよう、段差の解消や駐車スペースの拡大などのバリアフリー化にも取り組んでおり、2024年度に機器更新を行った泉大津PAおよび朝潮橋PAでは、いずれも前年度比で約1.5倍のお客さまにご利用いただいています。



泉大津PA(海側)